

答申のトピックス

本県高校教育の本質的課題を指摘 ・ 今後15年間でなすべき方向性を明示

- 今後15年の生徒減の中で、全ての子供・地域のニーズを満たし、本県の教育を保障していく最適解は何か。
- 高みをめざす生徒への的確な教育が十分でなく、生徒の持てる力を発揮させることができていないのではないか。
- 不登校や障害等で支援を必要としている生徒への適切な教育に課題があったのではないか。

⇒ ⇒ ⇒ **速やかに再編整備実施プログラム[仮称]の策定に着手できる答申内容**

地域ごとの学校の在り方

和歌山市周辺

- 普通科高校を4校、工業・商業・総合学科の拠点校を各1校

それ以外の地域

- 普通科高校を各市域に1校
- 工業・商業・農業が専門的に学べる学校（または学科）を紀北・紀南に各1つ
- 多様な教育ニーズに対応するため、総合学科の教育システム等も活用

◆現在29校ある県立の全日制高校がおよそ2/3（20校程度）になるイメージ

重点的に行うべきこと・高校に望まれること

- 和歌山の公務・教育・医療等を支える人材、教養豊かで責任ある県民の育成
➡ 県内進学と県内就職の促進、不本意な進路変更や中途退学の防止
- 大学進学・スポーツ・文化芸術で核となる高校生の育成
➡ 一定規模の拠点校における専門性の高い指導、現実を直視した教員の意識改革
- 次世代の地域産業を担う人材の育成
➡ 県内産業を支える人材の輩出、農業教育の充実

高校生段階での特別支援教育の充実

- 高等特別支援学校の新設 ○「学び直し」に特化した学級の設置
※再編整備で生じた施設（教室の一部）を活用

答申のアウトライン

課題 (地域、高校が共に疲弊していく懸念)

人口減少が続く中…、

4学級以下の学校
現在：10校 (34%)
15年後：20校 (69%)

県立高校の小規模化が進行
↓
高校の活力や多様性が低下
↓
高校の魅力が低下
↓
地域外や県外の高校への進学
↓
地域の活力が低下

「負のスパイラル」

展望 (持続・発展していくための概念)

高校教育への期待

- 高校生：「自己のもつ可能性を伸ばし、大きく羽ばたきたい」
- 地域：「社会をリードしていく人材を育ててほしい」

高校教育システムの在り方

- 今後も安定的に維持できる教育システム
- 質の向上・発展を担保できる教育システム

地域に応じた高校の在り方

- 特色を有した高校が数多く整備される地域
- 一定規模で活気ある高校に集約する地域

これからの県立高等学校の在り方

学校の活力や環境、条件の観点で、望ましい学校規模(1学年6学級程度)を想定した再編整備

(1) 和歌山の子供の優れた能力を十分に発揮できる高等学校の在り方

- ▶ 大学進学状況の改善
- ▶ アスリートの育成
- ▶ 世界に通用する、学力、文化・芸術の素養の育成

(2) 「個に応じた学び」が可能な高等学校の在り方

- ▶ 全ての子供が社会で活躍するために、高校の特別支援教育の充実
専門的な職業教育を行う高等特別支援学校の設置

(3) 本県高等学校における普通科、専門学科、総合学科の在り方

- ▶ 将来にわたって活躍できる基盤をつくる普通科・総合学科教育
- ▶ 本県産業界の期待に応える専門学科教育

(4) 県内各地域の状況に応じた高等学校の在り方

- ▶ 和歌山市周辺では、特色ある複数の普通科高校と、工業科、商業科、総合学科の拠点校を整備
- ▶ それ以外の地域では、普通科の中核校と、多様な学びが実現できる高校を整備

(5) 中学校と高等学校の接続の在り方

- ▶ 将来展望をもって高校へ進学できる進路指導への転換
- ▶ 適切な入学者選抜の在り方を検討

(6) その他

今後15年間の「再編整備実施プログラム(仮称)」を教育委員会で作成